

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

友章 水月選

それぞれの影歩みゆく冬満月

田薦恵美子

(評)友人かそれとも家族で連れ立って月夜に出かけたであろうか。歩いている人皆それぞれに影を連れている。冬の月光の下を歩いている情景が目に見えるように鮮明である。揚句は上五の「それぞれの」がよく生きている。

月は四季それぞれの趣があるが、単に月と言えば季語は秋をさす。旧9月13日の月を十三夜、15日を名月、16日を十六夜と言う。冬は冬満月、寒月光などがある。

伊那谷の冬満月の白さかな 佐川 広治

風を読み石路の花茎日毎伸ぶ

竹崎たかひろ

(評)晩秋は菊の花の世界である。野性の菊で特に海岸に多いのは黄色の石路の花。真白い花の野路菊である。両方とも庭園などにも植栽されている。

風の中の石路の花茎が昨日より今日と日毎に伸びていると観察している。同作者の句で「斉に南を指して石路の花がある。確かに花は太陽の方向に向いている。細かい観察眼によって句は生まれる。」

○つわぶきの花の日々新たなり

高野 素十

茶の花や母の教えの身嗜

津田 久美

(評)晩秋ともなれば純白に黄色の茶

の花が清楚な姿を見せてくれる。生前に母からいろいろな身嗜みを教えられたことを思い出している作者である。

身嗜みとは身なり、言葉、態度など整えることである。昔は親の責任として特に母親は厳しく躰として教えたのである。季語の「茶の花」がこの句にぴたりである。

茶の花や父を限りの葉売り 大島 潮子

とんぼにも異骨相氣質風に向く

岡村 嘉夫

(評)とんぼの群れが風に向かつて飛んでいる。風に押し流されるとんぼもあるが中には風に向かつて飛んでいるものもある。他のとんぼは風に乗って流されるように飛んでいるのに自分の意思を貫くよう風に向かつて飛んでいるのを異骨相氣質とユームアに表現したのである。

赤とんぼみな母探すごとくゆく 細谷 源二

### 二句抄

靴底に優しき落葉踏みてゆく 小野川町子

なかなかに腰の上らぬ今朝の冬 片岡 包女

早々と千切り柚子湯をほいまま 大川 節弥

山茶花の日当る花に添い歩く 森岡 照月

つなぐ手の母の温みや七五三 一乗谷栄華を偲ぶうす紅葉 照月

幸せを運んでくれる石路の花 立冬や人の縁の絶ちがたく 間 浩太

もう少し生きてみようか立冬のぬくし 残る虫もう一度のみ立ち止まる 伊藤 秋甫

一年に一度芋茎酢みそ和え 古都の柿届きて食へば法隆寺 國田 貞子

うす寒き日は洋服も並べお

おとめにと貰いし零余子炊きあがる 川村 博子  
行く秋や潮の香りを持ち帰る 井上 松代  
石垣の野菊の満開香を放つ 津田 久美  
木もれ日の石路花の葉の艶光 田薦恵美子  
秋日和笑顔の句友車椅子 竹崎たかひろ  
夜露おく車静かに並びけり 岡村 嘉夫  
一斉に南を指して石路の花 友章 水月  
菊花展世相の変化見え隠れ 友章 水月  
取りかえる敷布の真白冬日燦 友章 水月  
洪滞の尾灯眩しき冬隣

### 名句鑑賞

友章水月

乾鮭も空也の瘦せも寒の中 松尾芭蕉  
干乾びた鮭が荒縄で虚しく吊るされて 松尾芭蕉  
いる。瘦せ細った僧が寒さの中鉢を叩きながら勧進して廻っている。

乾鮭と空也と異なった素材を巧みに絡ませて見事に厳寒の冷たさと乾きを表現している。己の虚しさや孤愁と置き換えて漂泊の生き様を詠みあげている。「空也」とは京都の洛中や洛外を念仏を唱え少しの食物やお布施を貰う鉢叩とも言われる仏門の修業の一つである。

### 新年のご挨拶

友章良雄

明けましておめでとうございませう。皆さんもよい年を迎えられたことと思います。町内外の方から「俳句を見たいです」「選評を楽しみにしています」との声をよく聞きます。俳句が少しでも町民の方々に興味を持っていただければ嬉しいです。会員一同お互いに頑張りたいたいと思います。皆様方のご多幸を祈念すると共に今年もよろしくお願ひします。

### 次題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月五日

### 投句先

社会教育課

〒893-12012 いの町3597

## 今月のごども川柳

卒業は 喜ぶけれど みながなく

川内小 6年 宮脇 佳凛

(評)そうだそうだね。卒業することはうれしいけれど、毎日通っていた学校やお友達、お世話になった先生との別れがある。うれしいことだけれど寂しいね。そんな気持ちを素直に詠んだ小学6年生の川柳に心打たれた。今の気持ちを大事に育つてほしいな、と願うばかり。

陸上で つかれた足に ありがとう

枝川小 5年 篠藤 拓真

(評)陸上で頑張った。足もからだも疲れた普通のことと思わずに、足をさすりながら「ありがとう」と感謝のできるやさしい5年生。うれしい限りです。大切にしましょう。

土佐弁は なぜかたのしい どうしてだ

川内小 4年 松岡 りん

こんちくしょう どっか行っちゃえ 台風め 吾北小 6年 久保 嵐士  
たのしいな 本のせかいに 行きたいな 伊野小 5年 山崎 ひるとし  
まっかつか 心さびしい 空と山 枝川小 6年 片岡 彩

学校に あったらしいな 秋休み 伊野南小 5年 長瀧 奈々

夜空見る 雲の間に 丸い月 川内小 5年 筒井 咲希

紅葉だ 赤や黄色に 色ついた 長沢小 5年 増井 咲良

もみじ葉が 風にゆれると 秋の音 枝川小 6年 土居 凛乃

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは1月9日(金)です。たくさんの方の皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通してお願いいたします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。